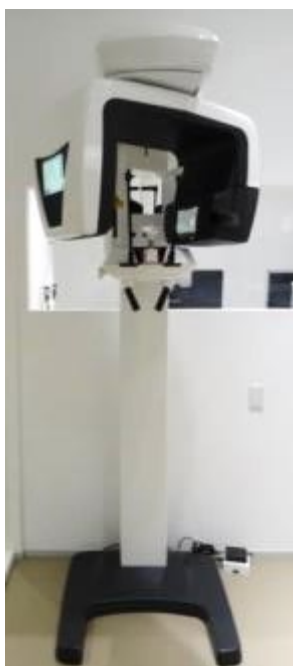


パノラマ X 線撮影とは、上下の歯を含めた顎の骨全体を撮影する検査方法です。歯や歯の根の形と本数、完全に歯が生えていない親知らずの歯、何らかの原因で生えてこない歯や過剰な歯、口の開け閉めのための顎関節の形、下の顎にある神経や血管が中を通る下顎管などを検査することが可能です。歯そのものよりも、顎の骨の検査に向いています。例えば、顎骨の腫瘍や、顎骨の嚢胞や炎症などを検査するのに向いています。

口内法 X 線撮影と異なり、フィルムなどの装置を口の中に入れませんので、口の中に器具を入れての検査が苦手な方も、安心して検査を受けることができます。

しかし、顎の骨全体を撮影するため、微小な病変を見るには向いていません。例えば、小さな虫歯や割れた歯の亀裂など、鮮明さを要求されるときには不向きな撮影方法といえます。また、2次元での画像となるので、被ばく量が少ない反面、奥行きなどの3次元的な把握はできません。

また、パノラマ X 線撮影の被ばく線量（実行線量）は 0.02mSv 程度と比較的少ないといえます。参考までに、健康診断で用いられる胸部 X 線撮影はおおよそ 0.05mSv になります。



パノラマ X 線装置の外観



パノラマ X 線画像